

第42回公共事業評価委員会 議事要旨

- **開催日時** 令和3年12月21日（火） 午前10時00分～11時45分
- **場 所** 福島市役所 4階 庁議室兼防災対策室
- **出席委員** 6人
川崎 興太（福島大学共生システム理工学類 教授）
渋谷 順子（福島商工会議所 議員）
菅野 稔子（福島県建築士会福島支部 理事役員）
駒田 晋一（弁護士）
佐々木 崇（ファイナンシャルプランナー（福島信用金庫））
渡辺 明美（ウイメンズ イノベーションカレッジ イン ふくしま 修了生）
- **事務局** 政策調整部長、政策調整課長、同総合計画係主任
- **担当課** 財産マネジメント推進室長兼公共建築課長、
財産マネジメント推進課長、同主任、同主任兼公共建築課建築係長、
公共建築課課長補佐兼新しい西棟建設係長、同設備係長、同係員、
環境施設整備室長、同副主幹兼主任、同係員、
教育委員会教育施設管理課長、同施設係長、同係員
- **会議次第**
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 説 明
(1) 福島市公共事業評価委員会について
 - 4 委員長及び職務代理者の選出
 - 5 議 題
(1) 評価対象事業の審議について
(2) その他
 - 6 閉 会

議事要旨

(1) 評価対象事業の審議について

① (仮称) 市民センター整備事業

担当課より資料に基づき説明、以下は質疑の内容。

- Q 1. 施設の統合・複合化によって、元々あった敷地の活用はどうか。
- A 1. 市民会館については、(仮称)市民センターのほかに、駅前コンベンション施設に機能が分散することになり、市民会館敷地は中心市街地の再編の中で消防庁舎の候補地になっています。
- Q 2. (仮称)市民センターの駐車場は現計画で足りるのか。
- A 2. それぞれの施設における車の利用状況や施設自体の稼働率を勘案し駐車台数を算出しているので、市民会館等の統合・複合化後も十分対応できる台数と考えています。
- Q 3. 立体駐車場は何階建てで、何台収容できるのか。
- A 3. 立体駐車場は3階建て4層になり、221台収容する計画です。市庁舎東西すべての駐車台数は約400台を確保する予定なので、駐車台数に関しては十分対応できるものと考えています。
- Q 4. 市民参画の項目で市民にアンケートは18歳以上を対象に実施しているが、学習スペースやフリースペースの利用対象者は18歳以上に設定しているのか。
- A 4. 学習スペース及びフリースペースについては、年齢を制限するものではありません。
- Q 5. 全体事業費70億円を想定しているが、建設コスト等が上昇している中で、事業費内で納まるのか。
- A 5. 現在、実施設計を行っているが、建設コスト等の上昇分も踏まえ積算しており事業費内で完成できると考えています。
- Q 6. (仮称)市民センター内に設置するフリースペースや親子フリースペースとは具体的に、どのような施設になるのか。
- A 6. フリースペースや交流スペースは1階部分のエントラスホールに計画しており、共生社会の実現の観点から、障がい者団体が運営するカフェなどを併設しながら自由に過ごせるスペースを計画しています。また、2階は学習センター機能が中心となるが、その中に靴を脱いであがれる親子フリースペースを計画しています。このスペースは親子が自由に利用できることや、災害時には福祉系の用途として避難所にするなど、多用途なスペースを設けています。
- 意見. 市民会館にある「さんどパーク」は福島に転入してくる女性、主に母親の憩いの場や子どもを安心して遊ばせる場として、その機能を街なかで果たしていたと思う。中心市街地に公的な施設で「さんどパーク」の代わりとなるような場所を示すことが出来ればよいと思う。

Q 7. 年間の維持管理費については、実施設計後に算出と記載されているが、現在の施設の維持管理費はどのくらいか。現時点の想定で、どのくらいコスト縮減できるのか。

A 7. 光熱水費が一つの目安になりますが、電気代に関して市民会館等の現有施設の維持管理費は統合することにより、概算で1,000万円程度は縮減できるものと試算している。あくまでも試算であることから目安としていただきたい。なお、実施設計で詳細なコストを算出します。

意見. 公共施設総合管理計画に属したものについては、中心市街地だけを見ても市民会館や中央学習センター、図書館、消防署など様々な事業が行われる。平成30年度に公共施設の戦略的再編整備検討委員会も開催されており、個別施設はそれぞれ議論されていると思う。今後控えている公共事業に対して、全体的なプログラムを作成することにより効率的な執行が図られると思う。市としては、そのプログラムを作成する必要があるのではないのかと思う。

(審議のまとめ)

新規着手について認めるということでもとめたいと考えるがいかがか。

(「異議なし」の声)

新規着手について認める市に対する意見具申については一任の下で進めさせていただいてよろしいか。

(「異議なし」の声)

②あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業

担当課より資料に基づき説明、以下は質疑の内容。

Q 1. 専門家の意見を反映させていると思いますが、焼却処理能力が従来の1/2になっている。ごみ減量施策や人口減少も想定していると思うが、災害等が起きた場合の災害ごみについて他市町村から受け入れることはあるのか。

A 1. 地震等の災害ごみを想定し焼却想定量の10%を安全率で見込んだ施設規模で計画しています。また、他市町村の受け入れについては、搬入量にもよるが10%分の安全率を見込んでいます。

Q 2. 福島市で、DBO方式を導入している施設はあるのか。

A 2. あらかわクリーンセンターです。

Q 3. あらかわクリーンセンターも新規着手したものか。

A 3. 新規着手です。

Q 4. 現あぶくまクリーンセンターとあらかわクリーンセンターの維持管理費を比較した場合、どのくらいの差になるか数字で示すものはあるか。

A 4. 施設規模もあり、あぶくまクリーンセンターとあらかわクリーンセンターを比較することはできないが、あらかわクリーンセンターではDBO方式を採用することにより施設整備と維持管理、運営を一元化することで効率の良い構造で施工することができた。また、長期契約することにより定期的な維持管理についても計画的に実施できることになり、あらかわクリーンセンターにおいてはコスト縮減が図られていると捉えています。

Q 5. 経験から今回もこの方式を採用するということが良いか。

A 5. 良いです。

Q 6. ヘルシーランドふくしまへの熱供給は行っているのか。

A 6. 現在は、蒸気による熱供給を行っており、暖房や温水プール、浴場に利用しています。

Q 7. 新工場完成後は今まで以上に熱供給を行っていくのか。

A 7. 熱供給に関しては利用方法も含め、今後検討し決定して行きます。

Q 8. 熱供給を受ける側の施設構造にもよるのか。

A 8. そうです。

Q 9. 供給される施設の改造等の費用について、高額にならないように工夫すべきと考えるがいかがか。

A 9. 供給を受ける側に関しても、構造等の調査、検討を行い効率の良い利用方法を検討します。

Q10. これだけの費用を投入することから、市民へのごみ分別の啓発をしっかりと行ってほしい。分別が出来ていないと炉の寿命にもかかわる。

A10. わかりました。

Q11. ごみ処理に関して見学コースを設けるとなっているが、見学の対象は主に学校等の授業になるのか。

A11. 環境に対する啓発活動は大切であり、ごみの減量化を進めて行くうえでは市民の意識を変えていかなければならない。そのためにもあぶくまクリーンセンター内に学習機能を備えた施設を整備し、学校等の授業の一環として取り入れていただくことを想定している。現在、あらかわクリーンセンターでは多くの見学者の受け入れを行っているが、再整備されれば受け入れも容易になり啓発活動が充実すると考えています。

Q12. 学習機能を備えた見学コースについては、設計段階から計画されているのか。

A12. 計画している。ガラス越しから施設内部を見られるルートを想定しています。

Q13. 進入路については、どのように検討しているのか。

A13. 現在は、工場東側の市道を進入路としているが、渋滞が頻繁に発生することが課題となっている。渋滞を解消するルートを事業者から提案してもらい整備を進めて行きたい。

Q14. 工場が阿武隈川に面していることから、浸水対策などは検討しているのか。

A14. ハザードマップでは浸水エリア外だが、工場施設を現地盤より高く配置することを予定しています。

(審議のまとめ)

新規着手について認めるということでもとめたいと考えるがいかがか。

(「異議なし」の声)

新規着手について認める市に対する意見具申については一任の下で進めさせていただいてよろしいか。

(「異議なし」の声)

③松陵中学校（松川地区義務教育学校）改築事業

担当課より資料に基づき説明、以下は質疑の内容。

- Q 1. 既存の校舎である松川小学校の改修内容とは。
A 1. 既存校舎は小学 1～4 年生が使用する。渡り廊下の設置、昇降口、特別教室の改修や多目的スペースとしての空間整備となります。
- Q 2. 新校舎の特別教室を小学 1～4 年生が使用することもあるのか。
A 2. 基本的には小学 1～4 年生が現松川小学校校舎、5～9 年生が新校舎を使用する。特別教室に関しても同様の考え方だが、一部交流スペース等があります。
- Q 3. 既存の松川小学校の建築年は。
A 3. 平成 3 年に新築しています。
- Q 4. 義務教育学校は福島市内で初めてとのことだが、使用するのは子どもたちなので、可能であれば子どもの意見も聞いてもらいたい。今回は設計が完了していると思うが、今後、整備を行う場合は子どもたちが整備に関わることで思い出となり、地元への意識向上になると思う。
A 4. 松川地区の小中学校関係者、保護者、地元関係団体等には説明会を実施している。今後の建設で検討していきます。
- Q 5. 避難所にも対応するとのことだが、新型コロナウイルス対策が必要となる。また、災害弱者や避難スペースの確保をお願いしたい。
A 5. 避難所に関しては体育館が 2カ所になるのでスペースは確保できます。
- Q 6. 発達障害の子どもが多くなっていることから、保健室を充実してもらいたい。
A 6. 今後の建設で検討していきます。
- Q 7. 義務教育学校になると、校長先生は 1 人になるのか。
A 7. 1 人になります。
- Q 8. 職員室は新校舎に配置する計画だが、現松川小学校の校舎からは無くなるのか。
A 8. 無くなりますが、低学年の小学 1～4 年生校舎になるので、担任の先生が控える教務室のようなスペースを確保する予定です。
- Q 9. 既存松川小学校は平成 3 年に新築しているが校舎の耐震化はどのようなのか。
A 9. 耐震基準を満たしていることから、耐震改修は行いません。
- Q 10. 福島市では、これから先も義務教育学校を整備していく予定か。
A 10. 松川地区のように小学校と中学校が隣接し条件が良い学校がないことから、現時点で、義務教育学校整備の予定はありません。
- Q 11. 現在、学校のトイレは洋式になっているのか。
A 11. トイレの洋式化については、4 年前から計画的に整備しており、トイレの洋式化率 80% を目標として、今年度が最終年度となります。
- Q 12. 校舎の必要面積について、令和 7 年度の児童生徒数を基に算出したと記載されているが、その考えで良いか。
A 12. 令和 7 年度の学級数を基に算出しています。

Q13. 文部科学省の基準を基に算出しているのか。

A13. そうです。

Q14. 今後40年で福島県の人口が半減するなどの話もあり、大幅に減少して行くなかで、30～40年先を見据えた整備が出来ると良い。面積で判断するのではなく生徒が居なくなった場合を想定し教室を他の施設に転用できる整備が出来ると良いと思う。

A14. 児童生徒数に関しては5～10年先の推計は把握しています。

意見. 人口の推移については、横ばいもしくは減少して行くことが想定される。長期的には、人口減少を見越した内容で実施設計が出来れば良いと思う。

Q15. 現在ある松川小学校の職員室に担任の先生が控える教務室のようなスペースが出来るのか。

A15. 5～6年生が抜けた教室か、教室の配置変更に伴う空き教室を利用します。

Q16. 現在ある松川小学校の昇降口はどうなるのか。

A16. 小学1～4年生が利用する昇降口を整備します。

Q17. 職員室から小学校低学年が利用する昇降口が見えないと、外部の人が自由に出入りしないか。防犯上どうなるのか。

A17. 昇降口は新校舎の職員室から見える所に配置する。また、小学校の昇降口も現在の東側から南側に移す予定です。

(審議のまとめ)

新規着手について認めるということでもとめたいと考えるがいかがか。

(「異議なし」の声)

新規着手について認める市に対する意見具申については一任の下で進めさせていただいてよろしいか。

(「異議なし」の声)

(2) その他

事務局より以下の説明

- ・ 本日の審議結果を受け、福島市公共事業評価実施要綱に基づいて市の対応方針を速やかに決定する。
- ・ 本委員会の評価結果と対応方針、議事要旨については、市のホームページにより公表する。